

2008年9月に米国の有力投資銀行であるリーマン・ブラザーズが経営破綻したことで、世界的な株価下落・金融危機が発生しました。これが「リーマン・ショック」ですが、日経平均株価も当時1万2千円から6千円台まで下がり、その後数年間、株価下落が続きました。多くの企業が業績悪化によるリストラを実施したり、倒産や廃業に追い込まれたりしました。

想



こまつ せつこ
小松 節子

時代は変わる

そのような中、弊社ではワークシェアリングで雇用を守り、倒産や廃業をした会社から技術者を受け入れ、外国人や女性も積極的に雇用してきました。リーマン・ショックの頃から「ダイバーシティ」を意識した経営を行ってきたのです。ダイバーシティとは「多様性」を意味しますが、国籍、性別、学歴、年齢、新卒、既卒、健康、障がいなどの差別なく、適材適所で輝

ける存在にどの思いで採用し、「人財育成」や働き方改革に取り組んできました。リーマン・ショックから12年後、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大。多くの人が亡くなり、経済が悪化しました。一番影響を受けたのは、観光・運輸・飲食・イベントなどの業界と言われています。これからワクチン接種も進んでいきますが、コロナの感染拡大をいかに

抑えていくかが経済を活性化するための鍵となるでしょう。企業においては、業務内容を見直す中で、デジタル化やロボティックス化への取り組みも必要になります。経営環境の見通せない中で前進していくためには、多様な経験や知識、人間力を持った「人財」の効果的かつ効率的な活用が求められます。私は、今回の危機を「社員

の意識改革や業務改善、会社が成長するためのチャンス」と捉え、昨年5月にT（テクノロジー）&B（ビジネス）カフェを立ち上げました。所属を越えて社員がチームを作り、IT・AI（人工知能）・IoT（モノのインターネット）を入れた技術開発を進めてビジネスにつなげることを目指しています。産・学・官の協力を得ながら取り組んでいきます。（メンテックワールド代表取締役）